

前田 朱美

助教
修士(保健学)
Akemi Maeda

✉ akemi.maeda@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

発達特性 発達障害 乳幼児 家族支援 子どもの権利
看護教育

プロフィール

2019年 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 保健学専攻 博士前期課程 修了
1998年 こまつ看護学校 専任教員

2020年 公立小松大学 保健医学部 看護学科 助手
2022年 公立小松大学 保健医学部 看護学科 助教

研究分野

小児看護学 生涯発達看護学

所属学協会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護倫理学会、日本看護学教育学会、
看護実践学会、日本公衆衛生看護学会、北陸公衆衛生学会



発達に特性のある子どもの
その家族の支援者になる

専門分野・研究分野

発達障害のある子どもと家族が安心して医療機関を受診できる支援

発達障害のある子どもは、アレルギー、胃腸障害、頭痛など健康問題のリスクが通常の子どもより高いと言われています。また、てんかんなどの脳波異常や睡眠障害などの合併症があることが知られており、健康問題や健康管理に関する医療的ニーズがあります。

子どもが病気になり受診する医療機関は日常とは異なる環境です。子どもは、症状に伴う苦痛に加え、見慣れない環境の中で普段は経験しないことに遭遇することになり、より多くの不安や恐怖を抱くことになります。

発達障害のある子どもは、状況の読み取りが苦手であったり、嫌なこと、怖いことをより強く感じるという特性があります。また、医療設備や医療器具などから感じる感覚(触覚、嗅覚、視覚、聴覚など)は通常の感覚とは全く違うと言われています。さらに、何が嫌なのか、何に困っているのかなどを表現することが苦手です。結果、不適応行動を起こすことになります。

発達障害のある子どもをもつ家族は医療機関に対して、発達障害の理解の不足から生じる不満や受療行動の障壁を感じていることが報告されています。健康問題を抱える発達障害のある子どもに適切な支援が実施されなければ、医療への抵抗や恐怖は増幅し、その後の受療行動に影響を及ぼします。小児期に安心して医療機関を受診できた経験は青年期以降の適切な保健行動につながると考えます。

これらのことより、発達障害のある子どもと家族が安心して医療機関を受診できるための支援を目的に研究に取り組んでいます。

研究内容

医療機関における看護師の発達障害のある子どもと家族へのプレパレーション

子ども達は、認知発達に応じた方法で、病期や治療、検査・処置などの説明を受けた場合、その必要性を理解し、その子なりに状況を受け止めて、おとなとは違うその子なりの納得の仕方で治療や処置を受けることができます。その環境を整え機会を与える関わりをプレパレーションと言います。プレパレーションは、子どもや家族の人権や利益を考えた看護ケアです。

発達障害のある子どもに対してプレパレーションを行う際には発達の特性を考慮することが求められます。その実践には、看護師の、知識、思考、行動、性格、動悸、価値観、環境などが影響すると考えられるため、それらの実態や関連を明らかにしていきます。これらを明らかにすることで、発達障害のある子どもの特性をふまえたプレパレーションの課題を見出し、教育プログラムの構築に繋げたいと考えています。

シーズ・地域連携テーマ例

- 発達障害の疑いのある子どもとその母親への支援技術
- ロールレタリングを活用した学生支援

論文

- 発達障害の疑いのある児とその母親が参加する遊びの教室における保健師の支援技術、前田朱美、表志津子、岡本理恵、中田明恵、北陸公衆衛生学会誌、48 (1), 1-9, 2021

講演・口頭発表等

- ロールレタリングを活用した学生支援の実践報告、前田朱美、津田裕子他、第13回看護実践学会学術集会(石川)、2019年9月
- 発達障害の疑いのある児とその母親が参加する遊びの教室における保健師の支援技術、前田朱美、表志津子、岡本理恵、中田明恵、水本ゆきえ、第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛)、2020年1月

結果	
◆研究協力者の概要：男性1名、女性11名、平均年齢36.8歳、保健師経験年数13.2年、遊びの教室経験年数5.5年	
◆教室の概要：約2時間30分、自由遊び、設定遊び、話しながら等、スタッフ…保健師、保育士、臨床心理士、作業療法士等	
カテゴリ	サブカテゴリ（一部抜粋）
継続参加を支える	教室参加の理由を母親がどのように受け止め理解しているか確認する 子どもの発達や困っていることの解決策と一緒に考えていくことを伝え母親の特性に合わせて母親が教室参加したいと思える心地よい教室づくりをする
子どもの発達の促進につながる教室づくりをする	機会を逃さず子どもの発達を伸ばす関わりをする 保育園で経験する場面をプログラムに組み込み就園に向けての準備をする
子どもの発達状況を見極められる教室づくりをする	子どもの発達の状況の変化を把握する 子どもの発達状況の変化を把握する
子どもの発達を見極める	子どもの発達の状況の変化を把握する 子どもの発達状況の変化を把握する
母親の気持ちは常に寄り添い先を斟酌した関係をつくる	母親の思ひを止め認める 母親が思ひを出した機会を逃さない
母親との子どもの特徴に応じた関わり方の習得を支える	母親が子どもの発達があることに気づくことを助ける 母親の子どもの捉え方を促す
母親の子育て上の心配や困り感をアセメントする	母親の子育て上の心配や困り感をアセメントする 子どもの状況に応じた関わり方を具体的に示す
母親に子どもの発達を伸ばす関わり方を伝える	母親に子どもの発達を伸ばす関わり方を伝える 母親の特性や心遣りに併せて伝え方を選択する
母親の特徴や心遣りを伝える	発達相談や診断を受けるまでを見守る 母親と関係機関のつなぎ役をする
母親の容収過程を支える	母親の容収過程のつなぎ役をする 発達障害の疑いのあることを判断し母親に伝える役割を担う
母親同士のピアサポートを支える	母親の体験を開き会話をつくる 母親同士のつながりをつくる
他職種の専門性を活かして連携をとりチームで関わる	子どもの観察や関わりをスタッフで共通認識をする 他職種の専門とする侧面の支援はその職種に依頼する

遊びの教室における保健師の支援技術